

2つの「追悼碑」から考える

文化的ジェノサイドを許さない！3.24講演集会



← 都立横網町公園にある
朝鮮人犠牲者の追悼碑



→ 「群馬の森」に市民団体が
設置した朝鮮人労働者追悼碑
「記憶 反省 そして友好」
※2月2日 撤去された

飯山由貴さんのプロフィール (多摩美術大学HP 美術手帳HPより引用)

神奈川県生まれ。女子美術大学芸術学部絵画学科洋画専攻卒業、東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修了。多摩美術大学非常勤講師。過去の記録物や人への取材を手がかりに、社会と個人の影響関係に関心を持ちながら映像やインスタレーションを制作している。社会的なステイグマが作られる過程と、その経験が語られななおすことに関心を持っている。

主な個展に「アーティスト in 六区 2016 vol.1 飯山由貴『生きている百物語』」(瀬戸内国際芸術祭2016春会期、宮浦ギャラリー六区)、「APMoA Project, ARCH vol.16 : 飯山由貴 Temporary home, Final home」(愛知県美術館、2015) など。

1月29日 群馬の森で県職員が誰もいない強制連行朝鮮人犠牲者追悼碑に代執行を告げる。碑はあっという間に粉々にされ更地に。

2004年建立から10年後、追悼集会参加者の発言を理由に県は許可更新を拒否。20年後に県は碑を破壊した。

9月1日 横網町公園で関東大震災朝鮮人虐殺追悼碑で9月1日に行われる追悼集会。

極右団体「そよ風」が2017年以後毎年歴史を否定し犠牲者を冒とくするヘイト集会をぶつける。歴代都知事が追悼集会に送った追悼文を2017年以後小池都知事は送らない。

群馬では言葉を伝え、東京では言葉を伝えない。追悼碑との出会いや対話の機会を奪う試みは文化的ジェノサイドだ。

アーティスト飯山由貴さんをお招きし「ふたつの追悼碑」について皆さんと考えていきたい。

講師 飯山由貴さん ; アーティスト

場所 大久保地域センター 3階 会議室A

(新宿区大久保2丁目12番7号 JR山手線「新大久保」駅から徒歩8分)

日程 2024年3月24日 (日) 13:30開場 14:00開始

参加費 資料代 : 500円

主催・お問合せ

差別・排外主義に反対する連絡会

Eメール : riteihyo@gmail.com

